エ手学校造家学科から エ学院大学建築学部まで

建設産業史研究会 2014年7月18日(金)15:00 工学院大学名誉教授 吉田倬郎

1

工手学校設立の背景

- 明治政府の富国強兵政策に基づく殖産興業
- 殖産事業の振興(明治初期から)と払下げ(明治1 0年代から)
- 文部省設立(明治4年)
- ・「学制」公布、工部省内に工学寮設置(明治5年)
- ・ 工学寮が工部大学校に改称(明治10年)
- 東京職工学校設立(明治14年)(現東京工業大学)
- •「帝国大学令」公布(明治19年)
- 工手学校設立(明治20年)

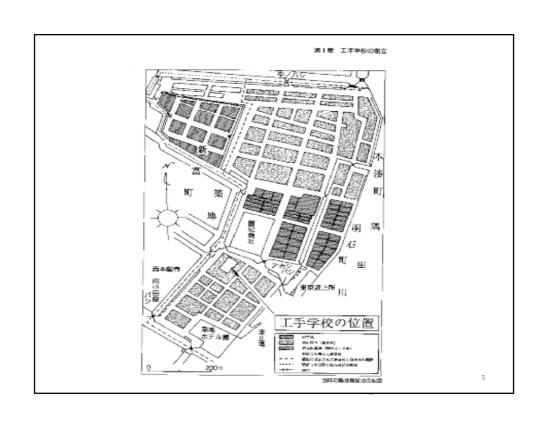
建築関係学校・建築関係学科の設立

- 工部大学校造家学科(明治10年)(明治12年1 期生卒業)
- 東京職工学校(明治14年)東京高等工業学校に 改称(明治34年:この時建築科新設)
- 工手学校造家学科(明治20年)
- ・ 東京美術学校(明治20年)建築科は昭和元年
- 日本大学高等工学校(土木・建築)(大正9年)
- 武蔵工業大学建築工学科(昭和4年)

3

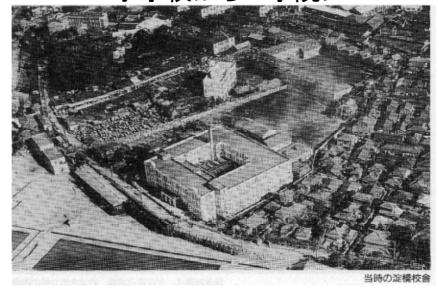
創設時の工手学校と造家学科

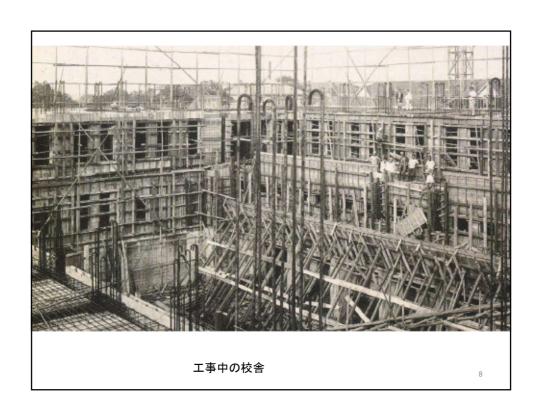
- 工手学校創設:明治20年:校長渡辺洪基:築 地
- 造家学科:辰野金吾、片山東熊、妻木頼黄、 藤本寿吉
- 明治29年校舎火災:校舎再建に際し御下賜 金を賜る
- 大正12年関東大震災: 淀橋に移転: 仮校舎 にて教育再開





昭和3年RC造3階建の新校舎落成 工手学校から工学院に





新制大学としての工学院大学の発足と 建築系学科の変遷

- 昭和24年:工学院大学(機械工学科、工業化学科)設立:第1部、第2部
- 昭和30年:電気工学科、建築学科を新設
- 昭和36年:建築学科に建築設備工学コースを新設
- 昭和39年:大学院工学研究科修士課程を開設
- 昭和41年:大学院工学研究科博士課程を開設する。
- 平成3年:第1部建築学科に建築学コース、都市建築デザインコースを新設
- 平成11年:都市建築デザインコースを廃止し建築都市デザイン学 科新設
- 平成12年:建築学科に建築コース、環境コースを新設
- 平成15年:建築学科の建築コースを建築学コースに、環境コース を環境建築コースに名称変更
- 平成23年:日本初の建築学部が誕生

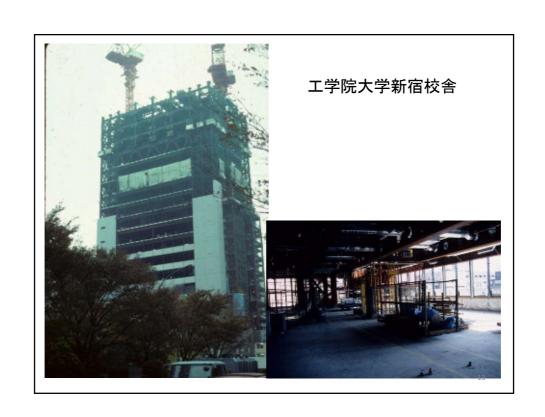
9

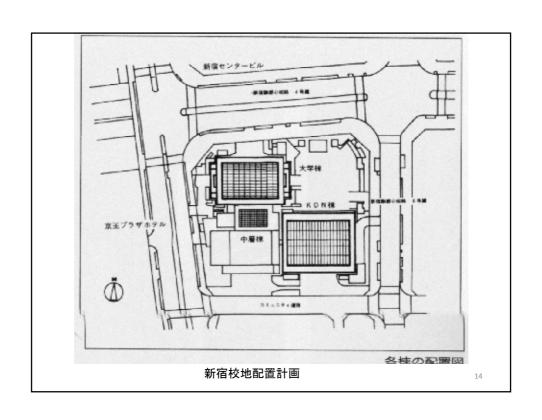
工学院大学の施設整備の推移

- 昭和35年:新宿校舎新館落成
- 昭和38年:ハ王子市中野町にハ王子校舎開設
- 昭和54年: 八王子キャンパスに新図書館落成
- 昭和60年:八王子校舎に3号館落成
- 昭和61年:八王子校舎5~11号館落成
- ・ 平成元年:新宿校舎の高層棟(新大学棟)落成 八王子校舎に創立100周年記念総合工学研究棟落成
- 平成4年:新宿校舎の中層棟落成
- 平成7年:新宿校地の工学院大学エステック広場落成
- 平成12年:八王子校舎に15号館落成
- 平成14年: 八王子校舎に地震防災・環境研究センター落成
- 平成24年:125周年記念総合教育棟竣工

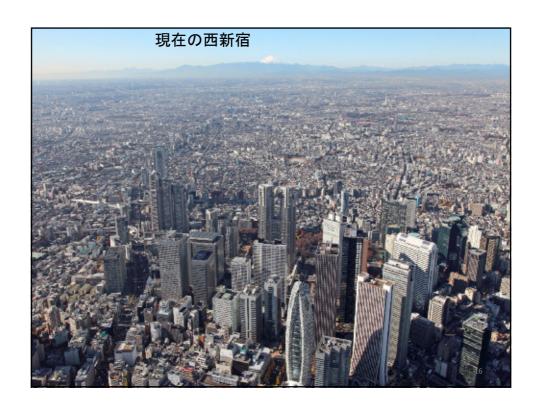


















建築学部を目指して

- 工学院大学建築学科には、学科改変の機運があった。
- 平成14年建築学科主任教授に就任(吉田)し、 中堅若手建築学科教員の殆どをメンバーとする、 建築学科将来構想検討WGを発足。
- 平成15年三浦新学長就任。複数学部化を目指し、21世紀プラン作成委員会(委員長:木村副学長)発足。吉田は、建築学科主任教授を辞し、学長補佐(教務部長兼務)に就任。21世紀プラン委員会委員。

学部学科再編の手続き

学内

- 当該学科における検討と準備
- ・ 大学レベルの合意
- ・ 理事会の決済

国(文部科学省)

- 届け出(内容の大幅な変化がなく、定員が既存 の定員以内):主に担当部局の指導への対応
- 審査(届け出の要件を満たさない場合):審査委員会での審査への対応

21

「21世紀プラン作成委員会(Phase 2)」 建築系新学部資料(改訂版2)-抜粋その1

21世紀プラン作成委員会建築系委員 建築系学科将来計画委員会 2004/09/13

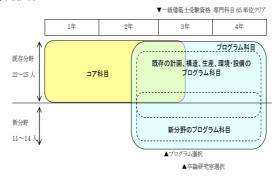
- 1. 建築系学部設置の背景と教育目標
- わが国の社会・経済の成熟化による、いわゆる新築需要を対象とした20世紀型建築市場、建築産業の縮小。
- 本学建築系では、20世紀型の建築学の教育体系と近未来の建築市場が求めるマンパワーのミスマッチを解消するため、既存の工学部建築系の範囲を市場のニーズに合わせて大きく拡張した、建築系学部設置の必要性を認識するに至った。
- ・ 新たに形成されつつある建築関連諸分野で、今まさに求められている職能領域に関わる知識、技術、能力に対応した専門教育体系を、従来の「工学部建築学科」の志願者層を大きく拡張した多様な能力を持つ人材にきめ細かく提供し、多様な「建築職能人(関連諸学・技術の統合者)」を社会に輩出することを目標とする。
- 2. 学部の名称
- 学部名称は、「建築学部」を第一候補とする。

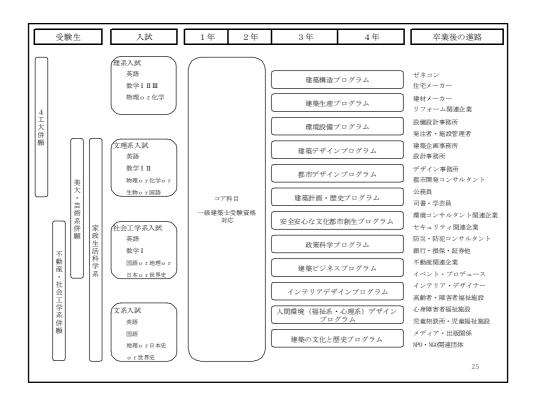
「21世紀プラン作成委員会(Phase 2)」 建築系新学部資料(改訂版2)-抜粋その2

- 3. 学部の体制
- 多様なカリキュラムと一級建築士受験資格認定のクリアの両立を実現するため、建築学科単学科で構成する。
- 既存の建築学の領域を拡張するために、一級建築士受験資格認定に対応する分野の教員22~25人程度(全体36人の2/3)、新規分野の教員11~14人程度(同1/3)を全てこの建築系学部建築学科に置く。学生数、教員数は現状を維持する。
- 工学部建築学科でなく、建築系学部建築学科である必要を、以下に整理する。
- ① 現代の建築に対する高度化・複雑化したニーズは、工学的ソリューションのみでは対応できない。総合的な「建築学」としての枠組みが求められる。
- ② 建築産業の周辺分野には、建築の基礎的素養(一級建築士受験資格程度)を満足すれば、必ずしも工学的教育の習得を必須としない職能、人材が活躍可能な領域がある。この領域は他分野出身者との競合関係にあるが、卒業生が競争優位に立つ能力付与、教育コンテンツの提供が必須である。
- ③ 入試状況を改善するために、本格的に建築を学びたくとも工学部的な教育の枠組みに気後れしている潜在的建築志願者を取り込む。

「21世紀プラン作成委員会(Phase 2)」 建築系新学部資料(改訂版2)-抜粋その3

- 4. 志願者、入試方法
- 従来の工学部の志願者層を拡張するために、理系入試、文理系入試、社会工学系入試、文系 入試の4つを実施する。
- 5. 1、2年次を中心とした基礎教育、総合文化教育
- 文系入試等で入学した学生を対象には、基礎教育科目を設定し、リメディアル教育を充実させる。
- 理系入試等で入学した学生については、従来の工学部の理数系教育を実施する。総合文化科目については、学生個々の専門領域が確定した後、よりインテンシブな受講形態を実現する。
- 6. 専門教育





2006年の複数学部化では 建築学部は見送られた

- ・大学では、「21世紀プラン作成委員会報告書」で、複数学部化の候補として、情報学部、建築学部、グローバルエンジニアリング学部、の3学部が候補として挙げられ、建築学部は情報学部とともに有力候補とされた。
- 理事会は、情報学部、グローバルエンジニア リング学部、の実現を決め、建築学部の設立 は見送った。

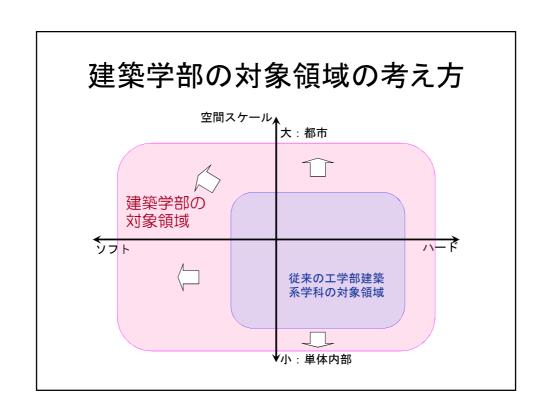
建築学部への再挑戦

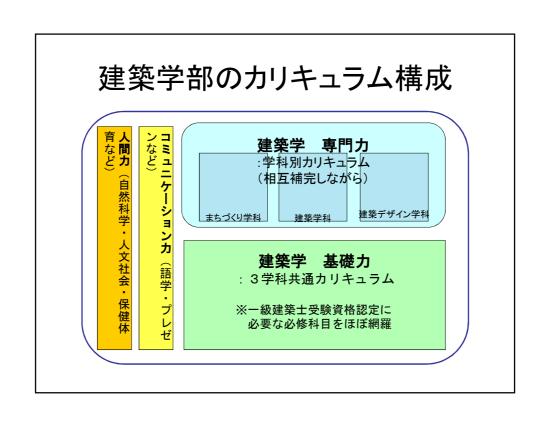
- ・2006年の複数学部化の4年後が一つの目標。
- ・ 学生募集活動を開始するには、学部発足の 前年度後期中に、学内のプロセスと国の指導 への対応を済ませる必要がある。
- 建築学部化に向けたこれまでの実績を生か しつつ、新機軸を取り込む。
- 日本の建築界の状況は、楽観を許さない。

27

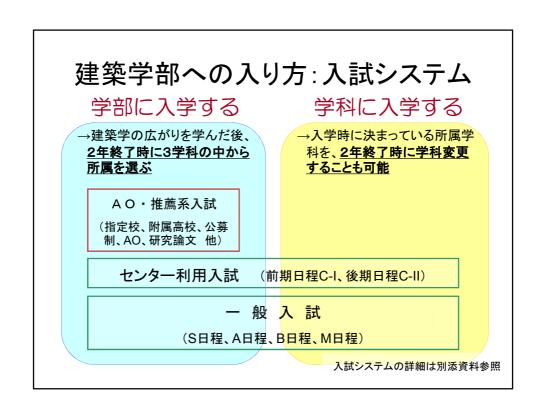
建築学部構想の問題意識

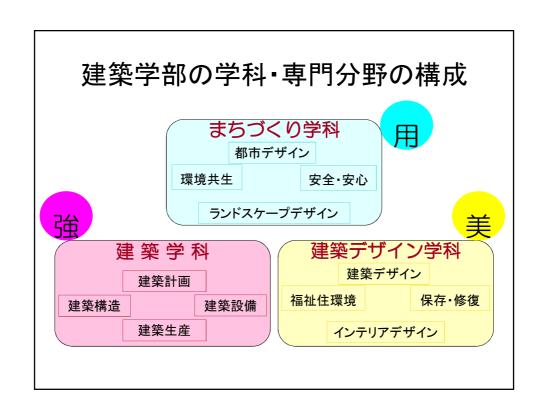
- 育成する人材の多様化:建築の周辺分野を意識
- 建築の供給者の視点に消費者の視点を加える:居住者、使用者、活用者、···
- 受験者層の多様化:文系受験者への開放
- 教員組織のスケールメリットの活用
- 教育制度改革への対応:学部大学院一貫、国際化、UIA、JABEE
- 建設業界の活性化への貢献: 工学院大学の建築 学部化への挑戦は逼塞した建設業界を勇気づける

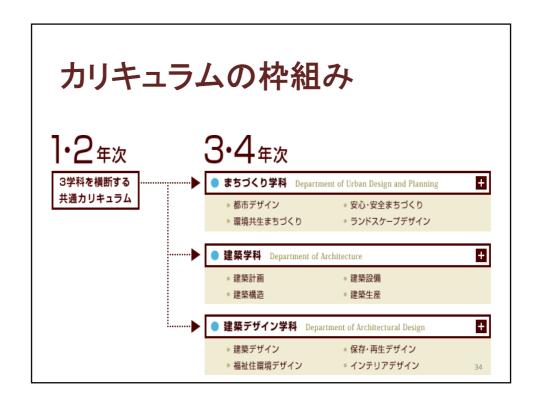




一級建築士受験資格への対応 建築学 専門力 「東京の単位を含む、建築学に関わる指定科目合計60単位 指定科目10分類それぞれの必要最低単位数をほぼカバー 「建築学の基礎的な科目30単位







取得できる資格

◆1級建築士→合格者数全国第5位

卒業後(指定科目の単位取得)、<u>2年以上</u>の実務経験を積むと受験資格が得られる

- ◆2級建築士、木造建築士
 - 卒業後(指定科目の単位取得)受験資格が得られる
- ◆インテリアプランナー
 - 卒業後、2年以上の実務経験を積むと受験資格が得られる
- ◆建築設備士
 - 卒業後、2年以上の実務経験を積むと受験資格が得られる(建築学科)
- ◆技術士(技術士補)
 - 卒業することにより、第一次試験のうち、共通科目が免除される。
- ◆社会貢献活動支援士

社会貢献活動支援士課程の指定科目を修得後、受験資格が得られる。 ほか、多数!

35

建築系一般入試志願者の推移



日本初のハイブリッド留学

- ・本学授業は日本語、生活はホームスティ で英語というハイブリッド環境による後期 4.5ヶ月間の英国留学
- 最大の特徴は、後期の4.5ヶ月間を、英国カンタベリー市に留学させ、提携校施設を利用して本学後期授業を現地で本学担当教員が実施、留学中の専門科目は日本語で受講、滞在中の生活(英国人家庭にホームスティ)は英語、というハイブリット環境による留学

防災·減災



様々な防災訓練・活動の企画、実施

防災・減災システム開発

通常時、地震時の助け合い、避難、救助、減災等を 実際の活動・訓練を通して学ぶ

39

建築学部の現状と課題-1

- 受験生:数、質ともに向上。今後、いかに維持 向上を図るか。
- カリキュラム:1、2年で専門基礎を習得し、3、 4年で専門を深めることの評価はこれから。3 年次に専門を決めるのは、おおむね成功。就 活と関連する課題が多い。
- ・工学部建築系の枠を超えた分野への挑戦: 防災、インテリア、ランドスケープに、非建築系の実績ある教員の登用。

建築学部の現状と課題ー2

・ 教員構成の充実、整備

学科	教授	特任教授	特別専任 教授	准教授	助教	特任 助教
まちづくり学科	6	1		5		
建築学科	10			3	1	
建築デザイン 学科	7		1	5		1
計	23	1	1	13	1	1

36研究室 2014年度現在

課題

年齢構成の改善:建築学部創設に向けて新分野に実績のある教員を招聘 分野バランスの改善:既存分野から新分野への移行

4

建築学部の現状と課題-3

- 建築学部の可能性を拓く: 建築学部の教育・研究の使命の探求・確立
- ・欧米型の建築学部(Art & Architecture)ではなく日本の建築学部(工学部系をコアとしすそ野を拡大)であることの意義と可能性
- 社会貢献の展開:大学の使命として教育と研究に社会貢献が加わった(中央教育審議会答申:2 006年1月28日)

参考資料

- 工学院大学HP
- 工学院大学100年史
- 工学院大学学園創立百周年記念写真集
- 公共建築 2011年10月号
- 工学院大学学園百二十五年史

43

ご清聴ありがとうございました